



それは十二月の朝日新聞です。凜とした婦人の写真とともに九里学園卒という文字が目飛び込んできました。御主人と一緒に体育着製造のクラロンを創業され、現在東北を中心に一、二〇〇校に製品を提供されている会社の社長の田中さんの紹介でした。この方に会いたいということで福島の会社を訪ねてお話を伺ってきました。

創業当時から障害者と共にという方針で、現在社員一四〇人のうち三十四%が障害者ですが雇ってあげているという考えは一切ないそうです。会社全体が家族で宝物という思いをずっと抱いておられ、社員の無遅刻無欠勤等のひたむきさにもしろ支えられ励まされることが度々あるそうです。

御主人を亡くされてから「笑顔・挨拶・感謝そして油断なく」という遺志を継がれて会社を運営されています。社員が九里学園に赴く時は必ずとみ先生の胸像に頭をさげるようにと伝えているということです。

高校時代の校長先生はとみ先生で、制服はスカートの裾に白線を自分で付けるものでした。応接室が掃除当番の時は茶棚からお菓子を失敬したことがあったりしてなかなか充実した高校生活だったそうです。

同窓生皆さんの子供さんや孫さんの体操着は、クラロンではありませんか？

(S六十年卒 池田 尚美 記)

職

場

訪

問

### 主人の遺志を継いで障害者雇用

クラロン社長  
田中須美子さん (S16年本科卒)

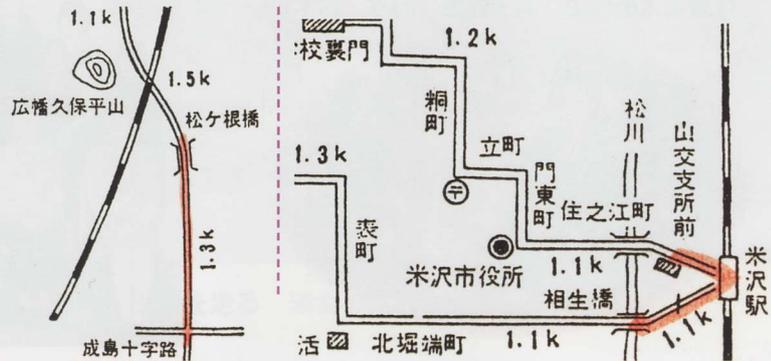
8/31

九里祭参加

### 同窓生作品展



本年度は在校生の美術部・書道部と同じ小体育館を展示会場とし、作品展示を行いました。絵画・書・生花・彫刻・帯・工芸品・キルトやパッチワーク・毎年恒例の飯豊支部の皆様の手芸品などなど力作揃い。数々の作品は来場者の方々の目を楽しませてくれました。今年の学園祭には皆様も是非足をお運び下さい。卒業生の皆様で、何か作品をお持ちの方、この作品展へぜひ出品してみませんか？



※オレンジは小林、島貫さんの走行ルート

### 当時の地方紙から

聖火は、9月26日に秋田県から山形県に入り13号線を南下、29日に小雨が降る中、米沢に到着し市民の大歓迎をうけた。明けて30日、前日があうような晴天の下、正走者を先頭に副走者2名と中学生を含む随走者二十余名が2列になり1区間6、7分のペースで走り抜けた。リレーはそのまま西に向かい新潟県へと繋がれて行った。

新聞を見ると、市内に入っすぐの区間の随走者に九里廣志校長先生の名前を見つける事ができる。そして、正走者の紹介には身長、体重や旧町名での住所が記載されているのを見てビックリ。時の流れを感じずにはいられない。その後トーチはそれぞれの学校に送られ歴史の証人として見守ってくれている。